

第4回

建造物とまちなみを 調べています

高砂市の建造物とまちなみ、その成り立ちは、大きく三つに分類することができます。

一つ目は、街道と川をつかった、人や物資の交流に関連した建造物。二つ目は、竜山石や塩田など江戸時代から続く地場産業に関連した建造物。三つ目は、近代化を促進した産業と商業に関連する建造物です。

調査では、まず、建築された時代を江戸・明治・大正&昭和に区分けしていきます。次に、構造・用途・屋根の形状と仕上げ・外壁の仕上げ、その他建造物の建築年代を特定するための様々な特徴の有無などを調べます。門や塀、庭や主屋に付属する建物の配置についても建築された時代を推定する手がかりになります。屋根に着目しますと、形状が入母屋なのか切妻か、道路に面して平行して建っている(平入り)か、2階

の階高が充分に確保できているか、屋根葺き材が本瓦(本葺き)か桧瓦(平葺き)か、その他でも洋瓦、金属板葺き、茅葺きなど様々なものが存在しています。

建築された当初から増築や改修された形跡があるか、

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合せ先

教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448-8255

竜山石が用いられているかどうかも確認しています。

調査中にいくつかの良質な歴史的建造物が解体されています。古い建物が現代の機能にそぐわないからと壊し続けるとその町の歴史は分断され、このまちで生まれ育った人はアイデンテ

ィティを失うことにもなります。まちの顔にあたるものが「景観」であり、歴史的な建造物もその一翼をになつていきます。それらの時間軸に織り込まれた営みや、地域に住まう人達の共有する知識や情報の蓄積が「文化」です。

古い建造物の歴史的価値を見出し「古いから良い」と言うばかりでなく、なぜ良いのか正しく伝える必要があります。過去から引き継がれてきた貴重な財産を未来につないでいく責任が今を生きる人にあります。調査結果がまとまりましたら、調査報告会を開催する予定です。ぜひ、ご参加ください。

(ひょうごへりテージ機構
H2O東播 吉田文男)



今市のまちなみ(吉田画)